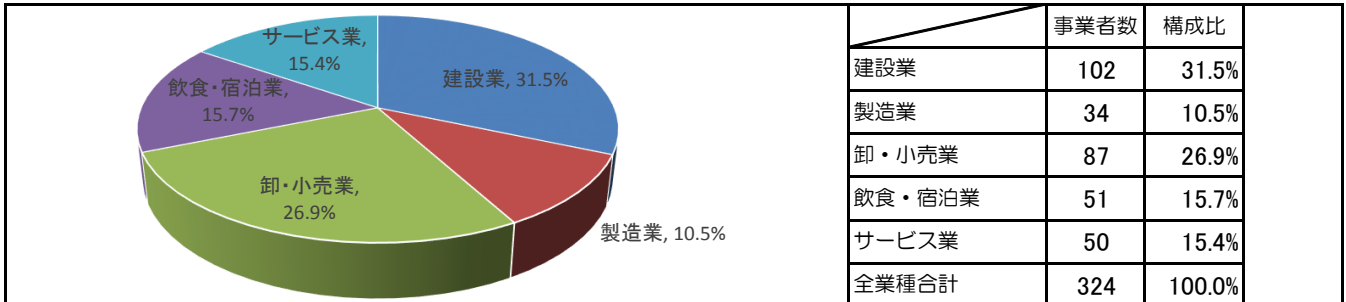


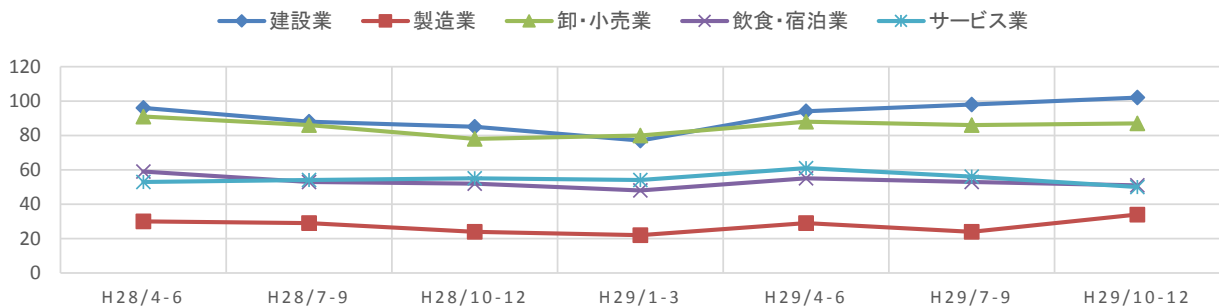
小規模事業者以外含む全事業所

◇ 調査対象事業所構成割合

<商工会地域市内全体>



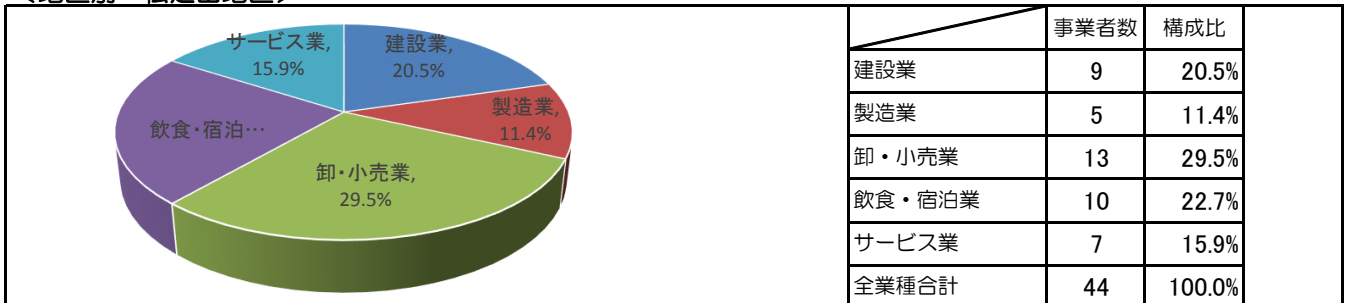
業種別調査事業所数の推移（市内全体）



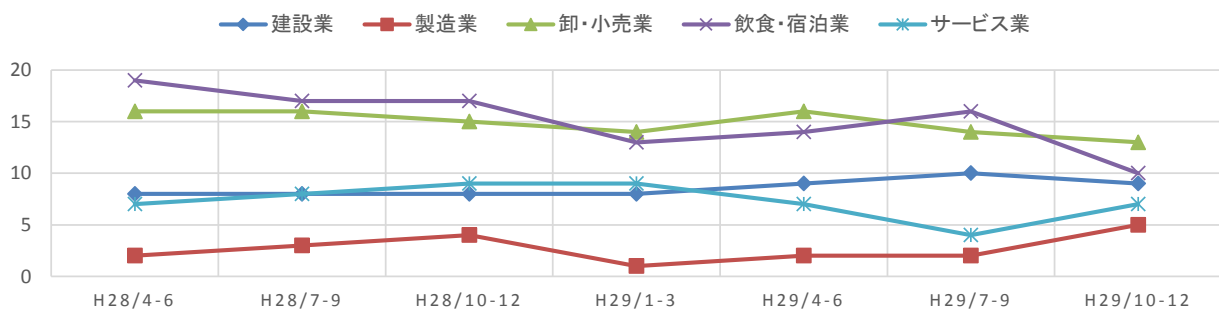
<コメント>

市内商工会地域全体の商工業者1056社の約31%からの回答を基に集計した結果である。製造業の割合が少ないものの、その他の業種に大きな偏りのない調査結果である。

<地区別：松之山地区>



業種別調査事業所数の推移（地区）



<コメント>

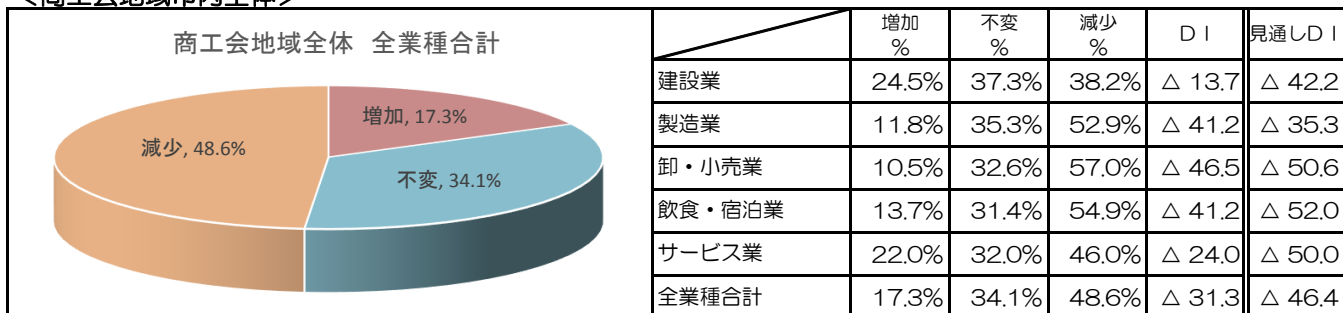
松之山地域の今回調査回答事業所の構成割合である。飲食・宿泊業の方々からの回答が減少し、調査を始めてから最少となった。製造業・サービス業の回答数が増えているが、全体での回答数も最少の回答数であった。今後も継続して調査することもあり、できるだけ多くの事業所に協力を願いたい。

D I 値（景況判断指数）＝（増加・好転などの回答割合）－（減少・悪化などの回答割合）

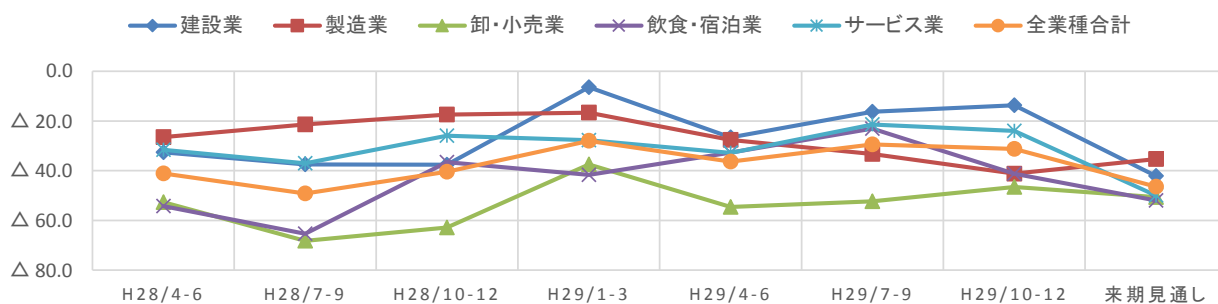
1. 売上について

- ・10月～12月の売上は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



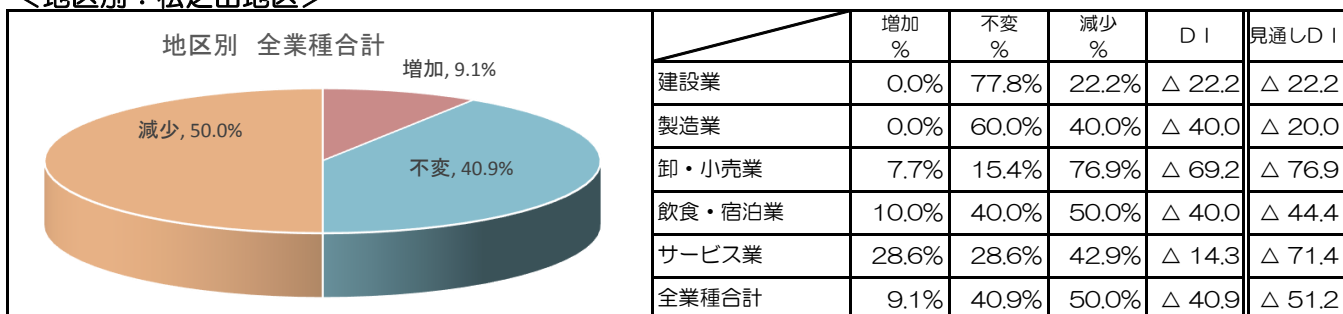
業種別売上の推移（市内全体）



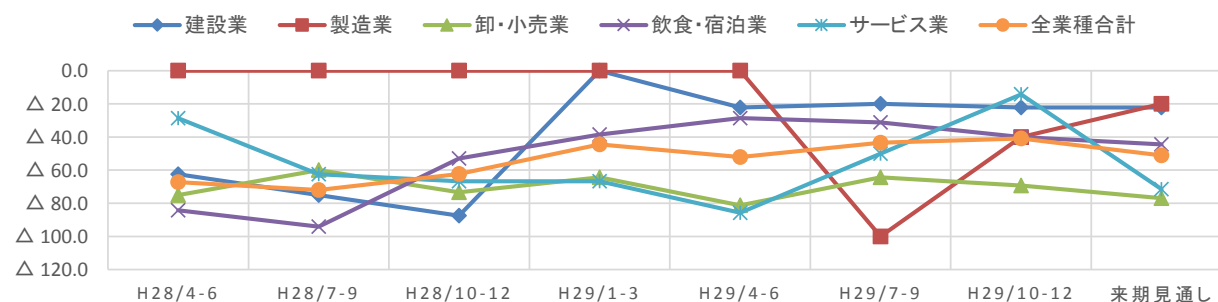
<コメント>

売上は、前年同期と比較して、全業種で31.3ポイント減少となった。依然として卸・小売業の減少が目立つ。来期見通しは、建設業においては、当地域の特性から冬季間の受注減少で例年悪化傾向となるが、製造業を除く業種で50ポイント以上悪化を予想している。

<地区別：松之山地区>



業種別売上の推移（地区別）



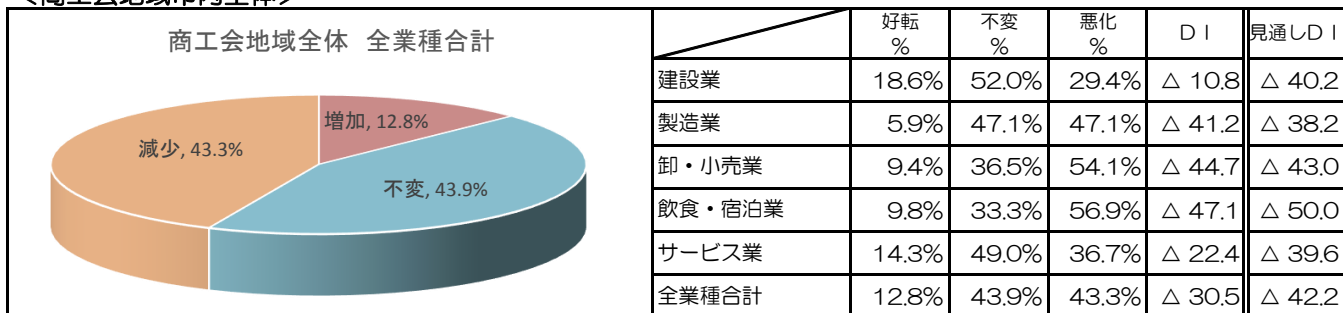
<コメント>

松之山地域では、前期にて大きく売上減少と回答した製造業のポイントが改善され△44.4ポイントとなり、来期見通しも改善予想されている。サービス業においても前年同期比で改善されているが、来期の見通しでは大きく悪化予想されている。その他の業種では、大きな変動はないが若干のマイナス傾向にある。

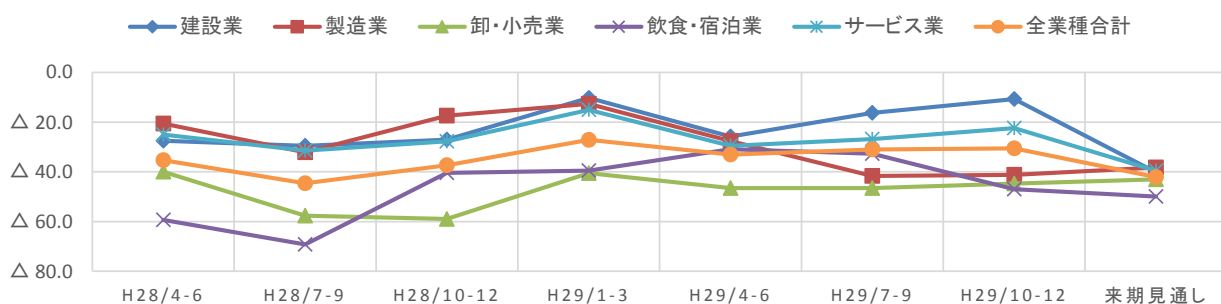
2. 採算について

- ・10月～12月の採算は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



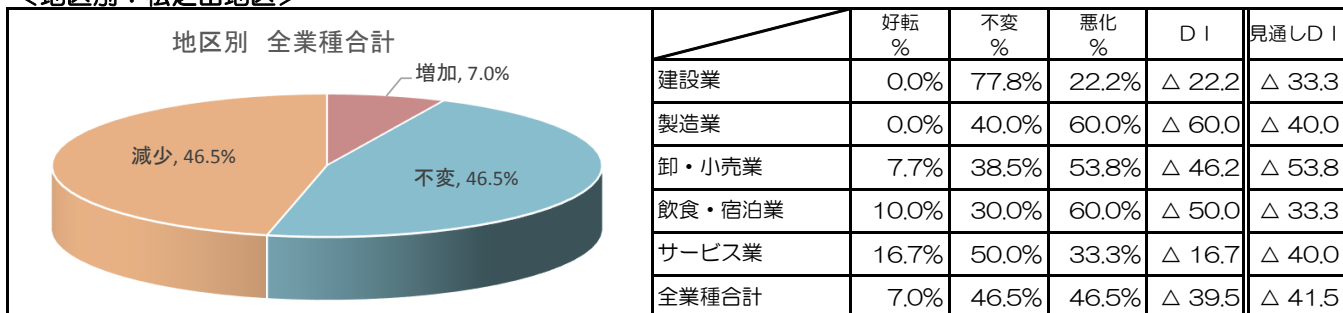
業種別採算の推移(市内全体)



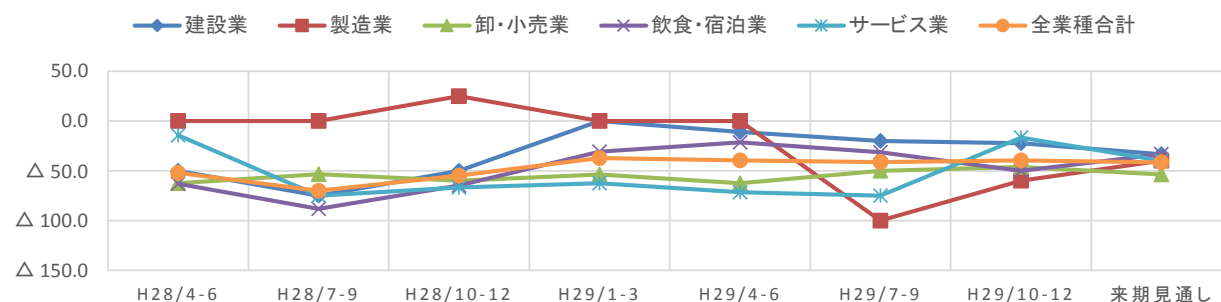
<コメント>

採算は、前年同期と比較して、全業種で30.5ポイント悪化。飲食・宿泊業と卸・小売業の悪化が目立つ。来期見通しでは、建設業は、売上予想と比例し悪化傾向であるが、全業種で42.2ポイント悪化を予想している。

<地区別：松之山地区>



業種別採算の推移(地区別)



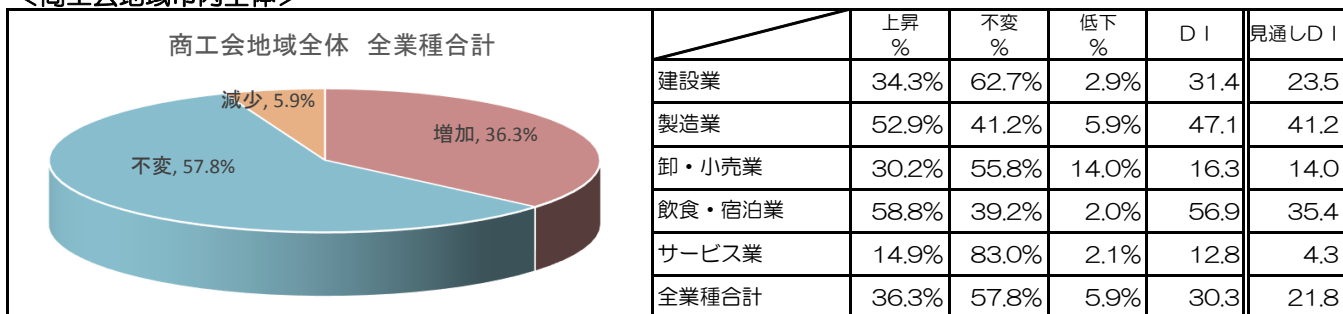
<コメント>

松之山地域の採算状況は、全業種のD Iで前期よりも18ポイント改善した結果となっている。売上状況と同様の波形となっているが、売上状況ほど大きな変動が見られない結果となっている。調査開始からの全業種波形を見ても、昨年度より今年度は変動が少なかったことが読み取れる。

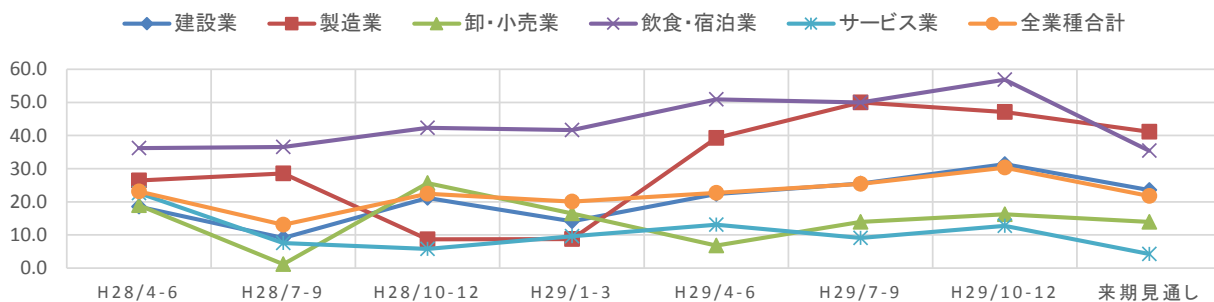
3. 仕入単価について

- ・10月～12月の仕入単価は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



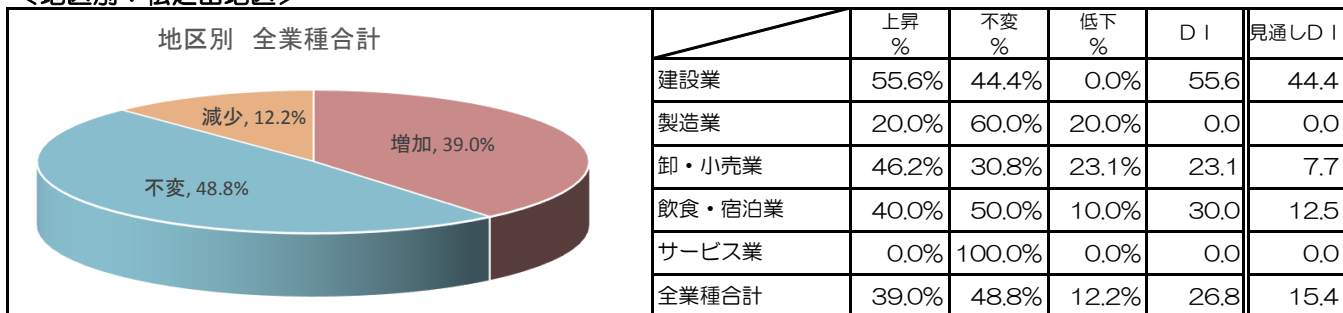
業種別仕入単価の推移(市内全体)



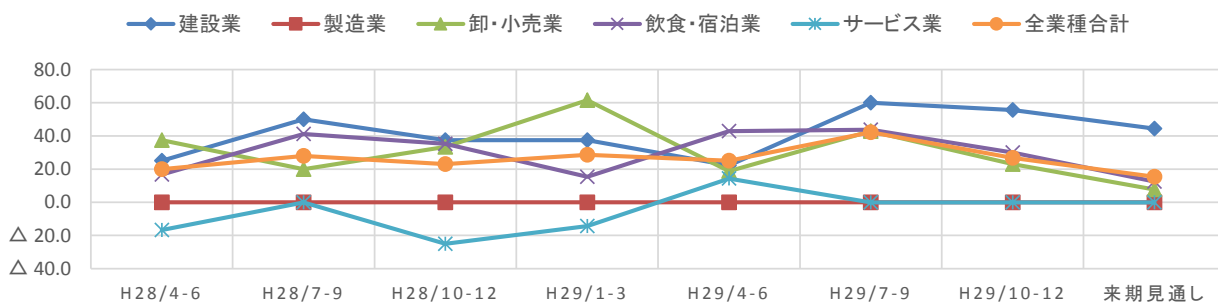
<コメント>

仕入単価は、前年同期と比較して、全業種で30.3ポイント上昇。特に、飲食・宿泊業及び製造業の上昇が目立ち、売上原価を押し上げている。来期見通しでも、若干落ち着いていくように思われるが、この傾向は変わらないと予想している。

<地区別：松之山地区>



業種別仕入単価の推移(地区別)



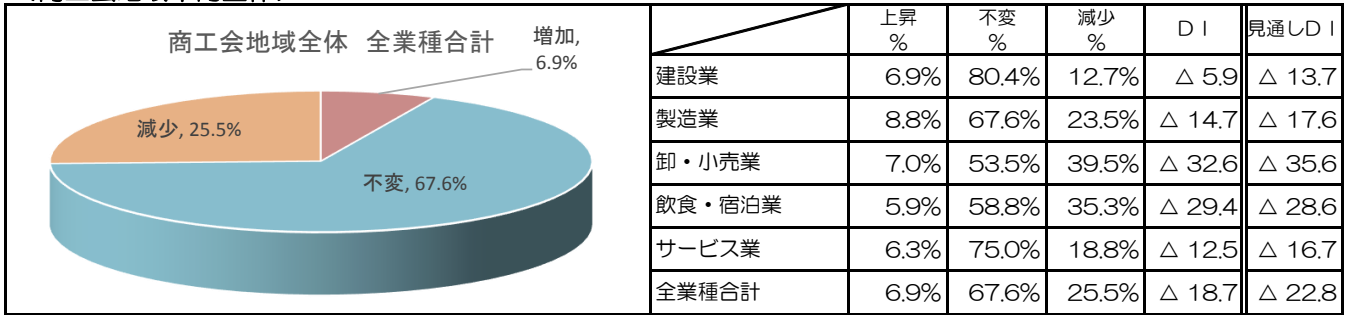
<コメント>

松之山地域の仕入単価の状況は、製造業とサービス業は変動が無く、その他業種においても改善傾向にあり、来期見通しも改善予測されていることから、年度当初より上昇傾向にあった仕入価格もやっと落ち着いてきたものと推測できる。

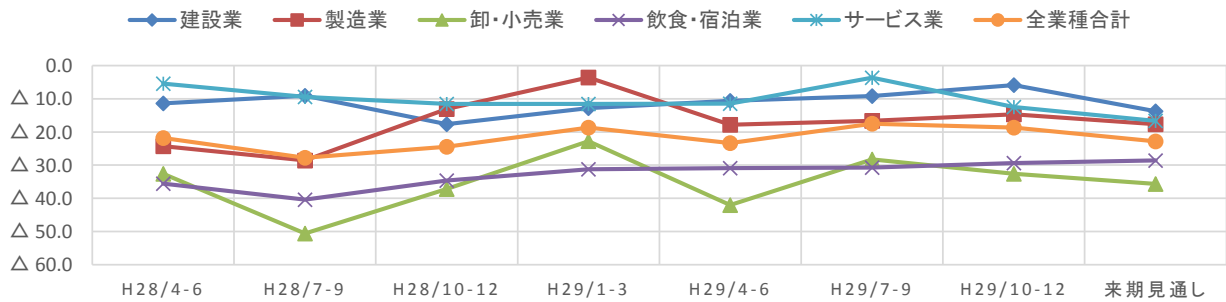
4. 販売（客）単価について

- ・10月～12月の販売（客）単価は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



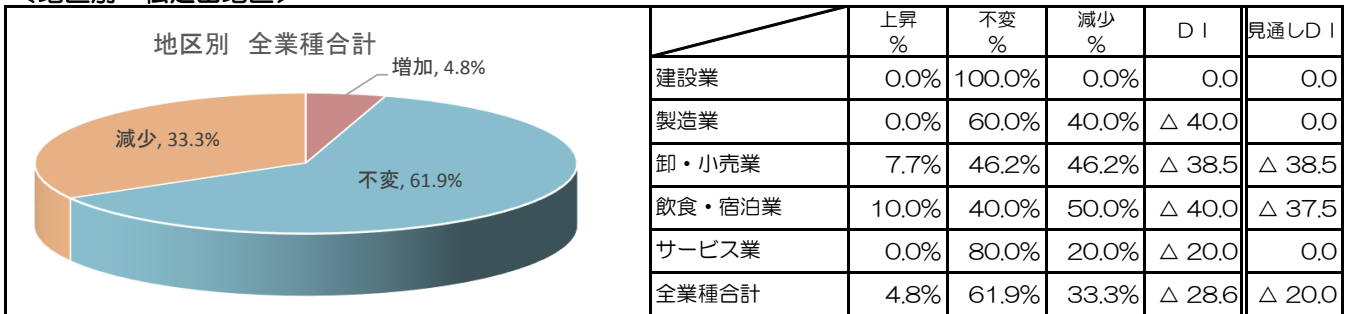
業種別販売（客）単価の推移（市内全体）



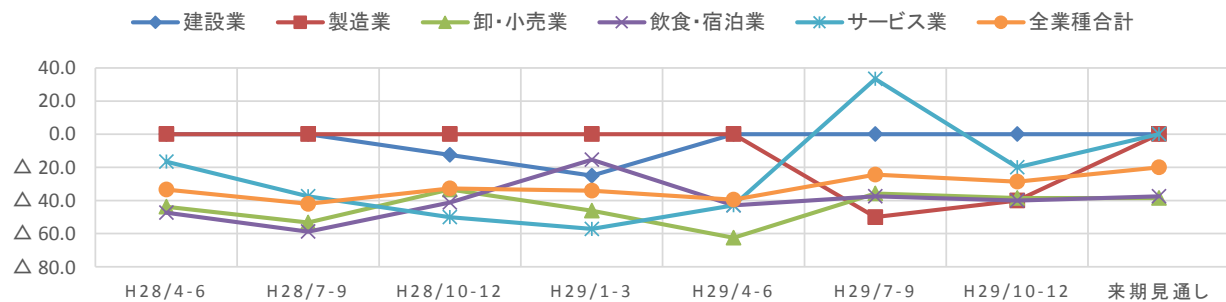
<コメント>

販売単価は、前年同期と比較して、全業種で不変基調であるが、18.7ポイント低下。来期見通しても、全業種で低下予想をしている。

<地区別：松之山地区>



業種別販売（客）単価の推移（地区別）



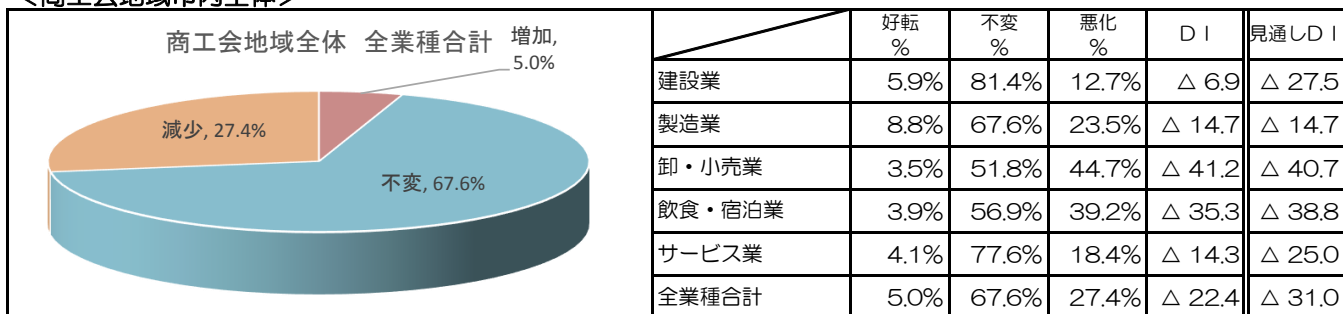
<コメント>

松之山地域の販売単価の状況は、全業種D Iで前期比△4.2ポイント悪化しているが、来期見通しでは改善予想されている。卸・小売業及び飲食・宿泊業においても現在マイナス値ではあるが、来期見通しも横ばいから若干の改善ポイントが予想されている。

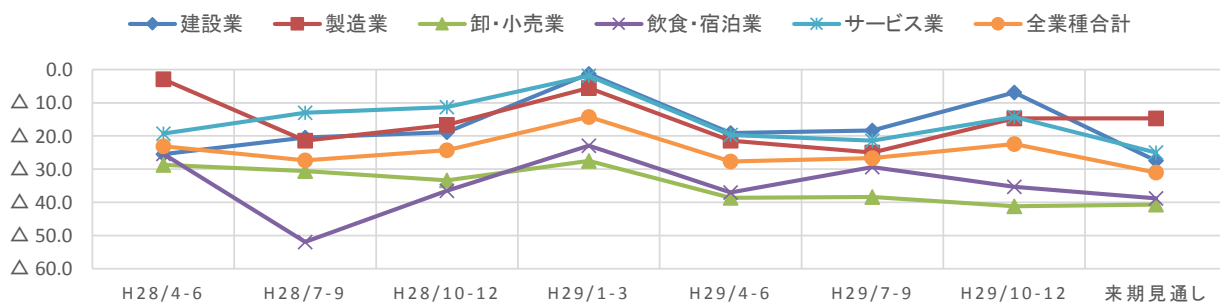
5. 資金繰りについて

- ・10月～12月の資金繰りは前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



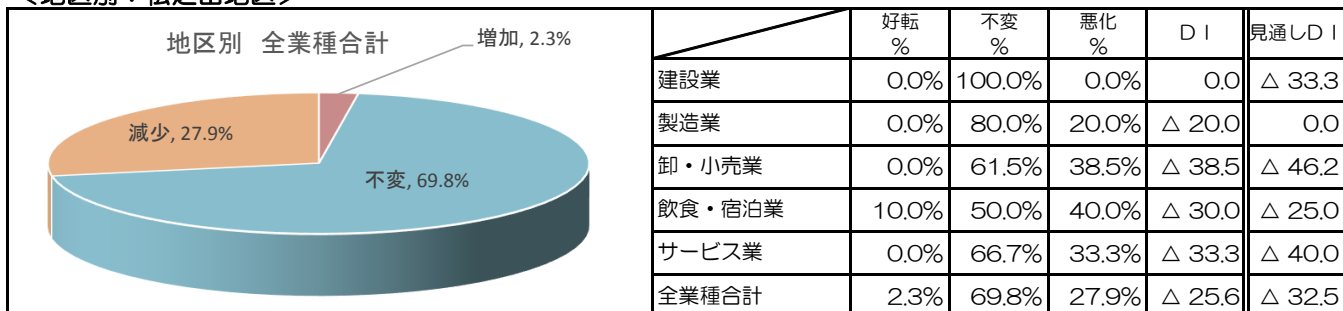
業種別資金繰りの推移(市内全体)



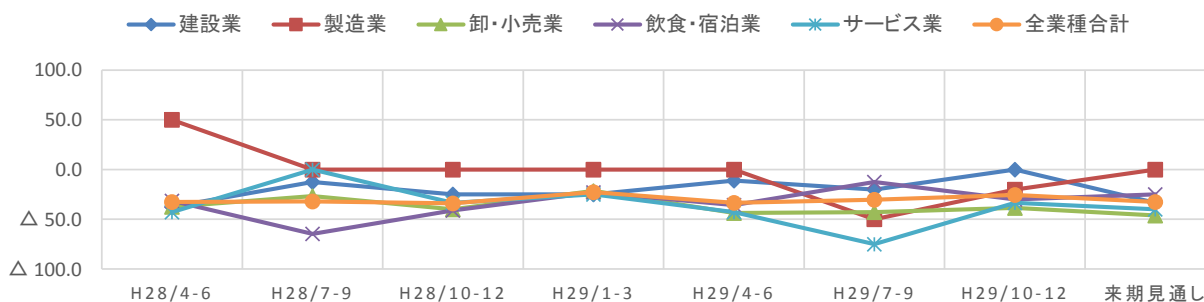
<コメント>

資金繰りは、前年同期と比較して、全業種で不変基調であるが、22.4ポイント悪化。依然として、卸・小売業及び飲食・宿泊業の悪化が目立つ。来期見通しでも、厳しい状況は変わらない。

<地区別：松之山地区>



業種別資金繰りの推移(地区別)



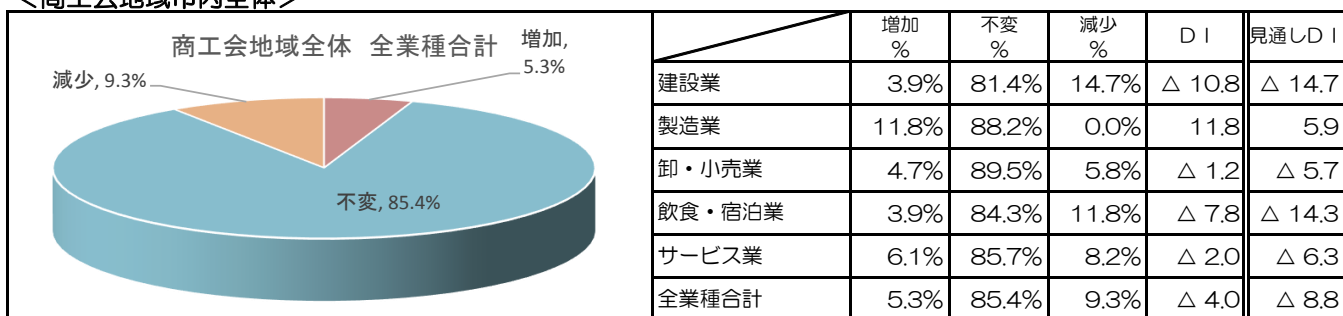
<コメント>

松之山地域の資金繰り状況は、全業種D Iにおいて前期比4.8ポイント改善した結果となった。D I値で飲食・宿泊業が前期比で悪化となっているが、その他業種は全て改善している。しかし、来期見込において建設業の悪化予想が大きく、除雪作業の受注が今後の結果を左右するものと推測する。

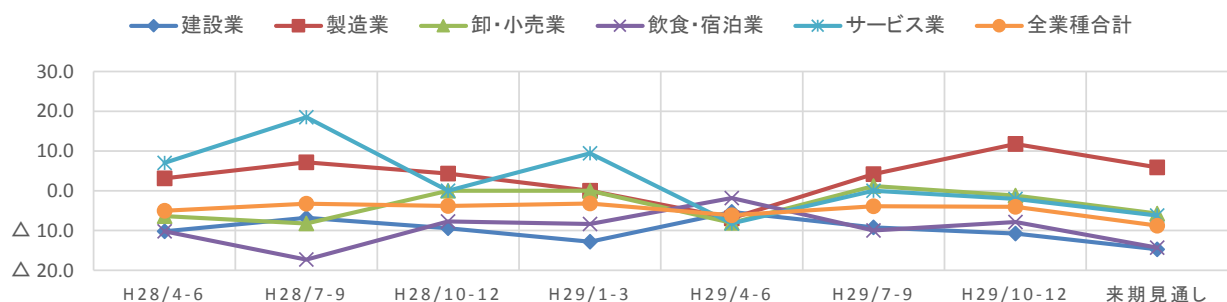
6. 従業員数について

- ・10月～12月の従業員数は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



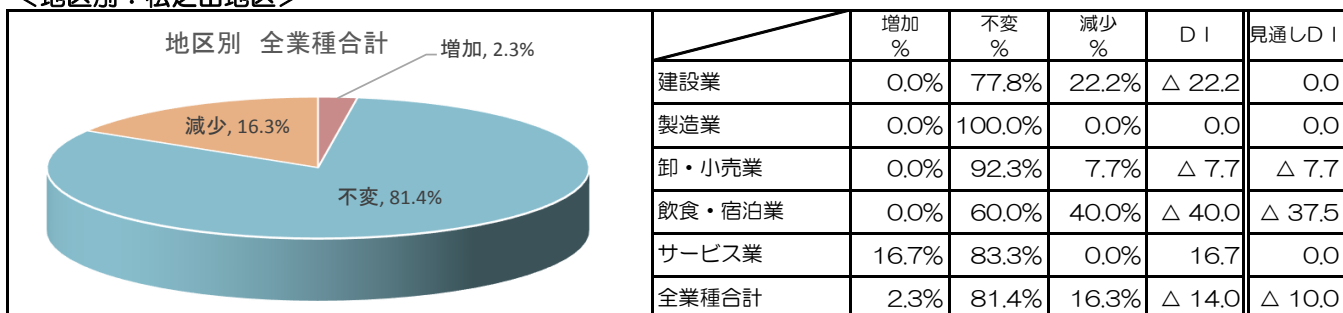
業種別従業員数の推移(市内全体)



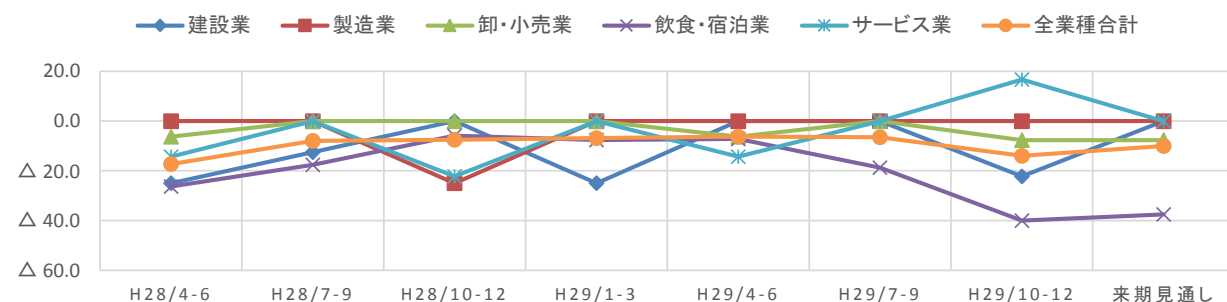
<コメント>

従業員数は、前年同期と比較して、全業種で不変基調であるが、4.0ポイント減少。但し、製造業は11.8ポイント増加した。来期見通しでも、同じような傾向である。

<地区別：松之山地区>



業種別従業員数の推移(地区別)



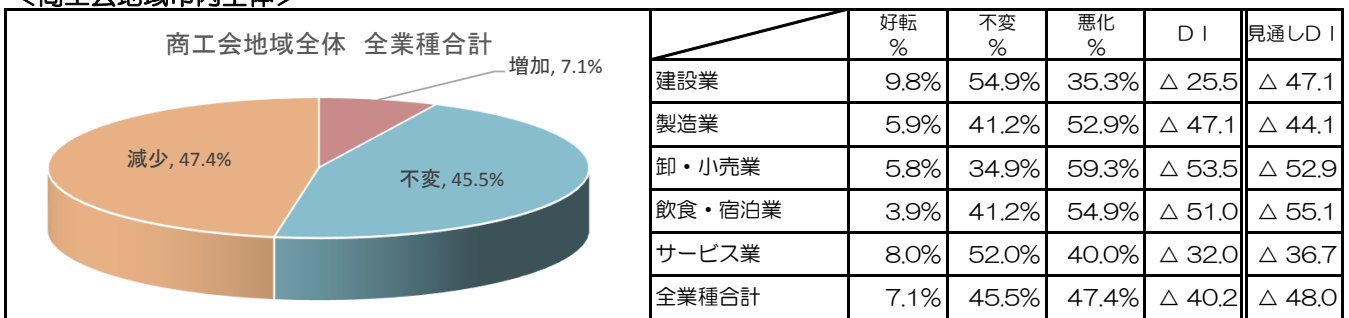
<コメント>

従業員数の状況では、前期調査にて製造業が大きく減少予想しており不安であったが、結果は変動が無く安心したところである。しかし、サービス業の増加を除き、その他業種で減少を示しており、特に飲食・宿泊業の減少値が高く今後の動向を注視したい。

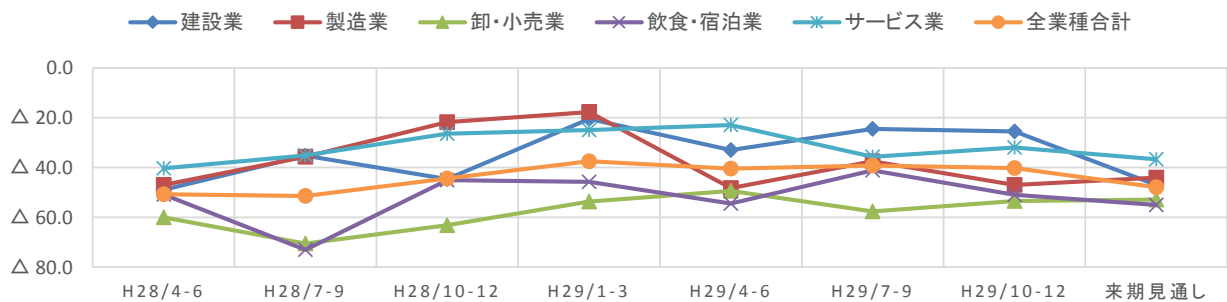
7. 景況判断について

- ・10月～12月の景況は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



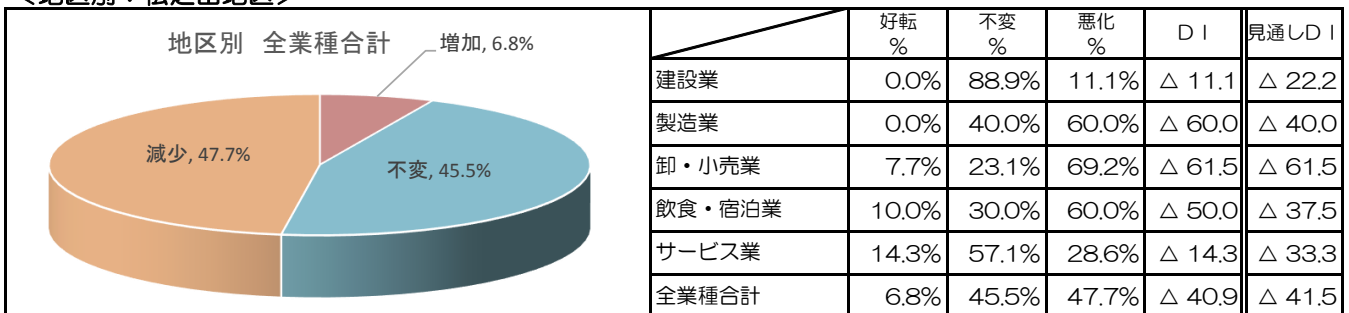
業種別景況判断の推移(市内全体)



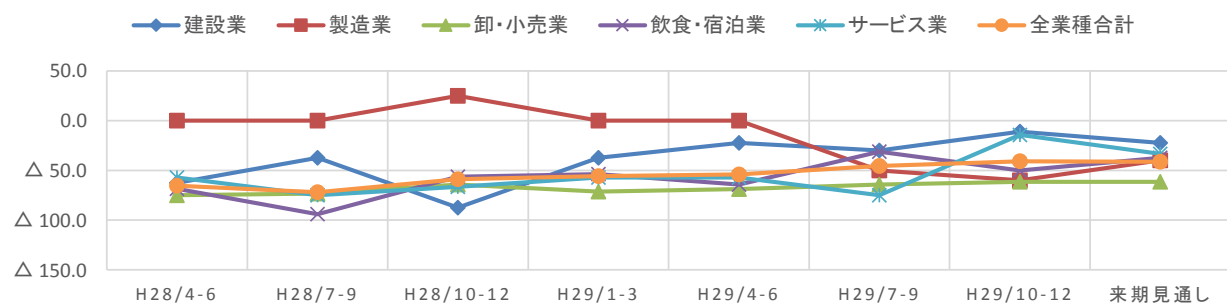
<コメント>

景況は、前年同期と比較して、全業種で40.2ポイント悪化。特に、卸・小売業と飲食・宿泊業は半数以上が悪化と回答。製造業も悪化傾向である。来期見通しは、全業種で48.0ポイント悪化予想であり、非常に厳しい見方をしている。

<地区別：松之山地区>



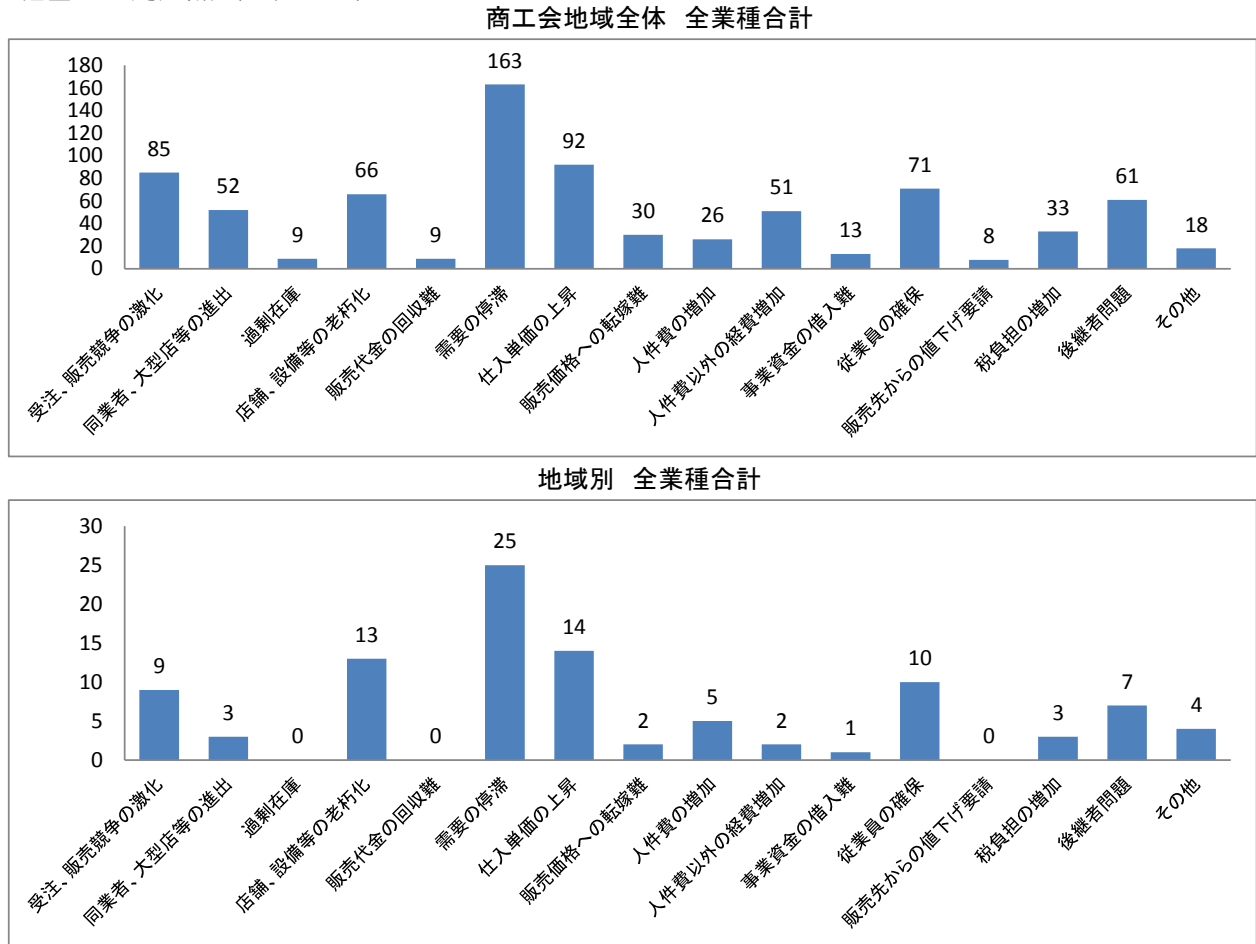
業種別景況判断の推移(地区別)



<コメント>

景況判断においては、全ての業種D Iでマイナス値を示しており、依然厳しい状況であると言える。特に製造業においては、昨年度は一度もマイナスとなっていなかったが、今年度はマイナスを推移しており、前年比で大きく変動したことが推測できる。

8. 経営上の問題点（上位3つ）



<コメント>

経営上の問題点、1位「需要の停滞」2位「仕入単価の上昇」3位「受注、販売競争の激化」となり、前回調査3位の「仕入単価の上昇」が上位となった。

松之山地域の状況も1位と2位は市内全体と同様であるが、店舗、施設等の老朽化が3位となっている。次いで従業員の確保となっており、後継者問題と併せ今後の対策を考えたいところである。

9. 地区の景況概要

・10月～12月時点での全体概況は

【建設業】

第3四半期の建設業の概要は、12月に入ってからの降雪があり除雪の稼働があったことからDI値で前期比2.6ポイントの上昇となっている。採算においても5.5ポイント上昇が見られるものの、燃料価格の上昇等もあり仕入単価は増加している。資金繰りについても11.5ポイントの改善が見られるが、来期の受注状況が不明なため来期見通しでは慎重な回答が出ている。

【製造業】

第3四半期の製造業の概要は、売上状況でDI値が60ポイント改善した。来期見通しでも更に20ポイント改善予想されている。採算も売上同様の傾向にあるが、昨年度調査ではマイナス値が見られなかったことから、今後も注視したいところである。仕入単価の状況では、調査開始から変動はなかったが、来期見通しで減少予想されている。しかし、前期で販売単価が減少しており、今期は若干改善したものの景況判断では10ポイント悪化と回答されている。

【卸・小売業】

第3四半期の卸・小売業の概要は、売上のDI値で前期よりも△4.9ポイント悪化しており、年末商戦での売上が予想に反した結果となっている。更に、来期見通しも悪化予想している事業者が多く、厳しい状況が続いている。明るい兆しと言えるところは、仕入単価が減少したことによる採算状況のDI値微増と言ったところで、仕入単価の来期見通しも今期比較で減少予想されていることから、今後の動向に注視したい。

【飲食・宿泊業】

第3四半期の飲食・宿泊業の概要は、売上DI値で前期比△8.7ポイント悪化となった。卸・小売業と同様、仕入単価は減少傾向にあるが、採算DIは△18.7ポイントの悪化となっている。来期見通しも冬期間の閑散期に入ることから減少予想されており、資金繰り状況を含め様子をうかがいたい。また、従業員数の推移で、前期に引き続き今期も減少しており、雇用状況も目を離せないところである。

【サービス業】

第3四半期のサービス業の概要は、前回調査時の来期見通しで売上減少が予測されていたが、結果は35.7ポイントの売上改善となった。しかし、来期見通しで△71.4ポイントと悪化予測されている。仕入単価は減少傾向にあるが、資金繰り状況では業種別の中で一番DI値が悪い結果となっている。ただし、景況判断では前期比60.7ポイント改善されており、好転回答も一番多い業種であった。